

第3321号

(第3種郵便物認可)

# 教育新聞

週2回 月・木発行

発行所 教育新聞社

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-40

代表 ☎ 03(3295)7051

〔購読申し込み・お問い合わせ〕

<http://www.kyobun.co.jp/>

〔購読料・月額〕2,500円+税

©教育新聞社 2014

源氏の紋所が笹竜胆だといふことはよく知られているが、実は違う。歌舞伎で演ずる義経の着衣に何の紋をつけるか困った揚げ句、別流源氏のものをつけたのが始まりで、義経さんが見たら「なんでオレがこの紋なの」というに違いない。もちろん頼朝さんも同じことを言う。この時代に源家を表す

## 第80回

### 子どもの多様な見方を生かす 社会科授業

玉川大学教育博物館研究員・玉川大学講師

多賀 譲治

物陰に隠れていたと書いてある。また目撃者から話を聞いた僧慈円も愚管抄にほぼ同じことを書いている。大銀杏の話は江戸時代になって戯作者の頭の中から生まれたものだ。

「幕府にたてつけば取りつぶし」みたいなせりふを聞くことがあるが、これらは明らかに間違い。ちなみに幕府は「公儀」、藩や藩士は「家」「家中」である。このほうが封建制の根本が分かりやすい。

倉幕府を開いて武家政権をたてた」と、大体このように書かれている。あたかも朝廷から武士に政権が移ったように読み取れるが、頼朝が鎌倉に武士の政権を立ち上げたときは、西国はおろか東国においてさえ基本は律令制度だった。武士の政権が朝廷に対抗する勢力になるのは承久の乱以後のことである。

## 当たり前前の落とし穴にはまらない

「しるし」は白旗だけであり紋服も無いのである。3代將軍実朝を暗殺した公暁が隠れていたのが、平成22年の大嵐で倒れてしまった大銀杏というのも事実とは異なる。吾妻鏡には「当宮の別当阿闍梨公暁石階の際に窺い来たり」と公暁が石段下の

組織と同義語になるのは、これまた江戸時代後期のことだが、一般には通用しない学術的な用語であった。藩にいたっては明治時代の「廃藩置県」という制度改革の中で初めて使われた言葉である。時折、時代劇で「拙者は藩士でございます」

府の場合は「幕府」と一括りにして、新しい政権がすぐにくらでもできたようなイメージを持たれてしまふのがちと危しい。鎌倉時代を例にとってみよう。多くの教科書には「頼朝が義経をとらえることを理由に守護や地頭を置くことを朝廷に認めさせ、鎌

結局、「幕府」という呼び名は、後世の人が「あの時代の政治の仕組みを幕府と呼ぼう」ということにつけたもので、これは室町幕府や江戸幕府にもあてはまる。授業を進める上で歴史的用語を使うことは不可欠だし、エピソードも必要だ。しかし、中には後世の脚色や都合解釈が含まれていることも忘れてはならない。これは歴史を学ぶ上で大切なことの一つである。

教師がこのことを知っていれば、教え方も自ずと変わることだろう。社会科学学習の根本は事実に基づいた資料の提供と分析である。その気になれば、当たり前でなかったことが自身の手で見つかるかもしれない。歴史を出来事の流れて終わらせてしまうか否かは、こうした教師の姿勢と努力で大きく変わる。